

2020年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者C日程 試験問題

刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

＜解答上の注意＞

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 六法は貸与品なので，折り曲げや書込みをしないこと。なお，書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後，解答用紙と貸与した六法を回収するので，指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題 1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設問 1〕（配点 30 点）

Xは、AがBをビルの地下室に呼び出して拳銃で殺害する計画を持っていることを察知し、Aに助力する意図で、銃声が漏れないよう地下室の隙間をガムテープで塞ぐなどした。Aは、知り合いのCから、XがAの計画を事前に察知し、地下室の隙間をガムテープで塞ぐなどしたことを伝えられた。Aは、計画どおり地下室で殺害すると、後々XがAに対し恩着せがましく接してくると思い、それを避けるために計画を変更して、Bの自宅でBを射殺した。なお、地下室の隙間をガムテープで塞ぐことについて、XとAとの間には意思の連絡はなかった。

Xの罪責を論じなさい（但し、特別法違反の罪を除く。）。

〔設問 2〕（配点 30 点）

運転免許を持っていないYは、友人のDから、交通違反等の取り締まりを受けた際にはDの名前を用いてよい旨の承諾を予め得ていたところ、某日、無免許運転中に取り締まりを受けた際、無免許運転の罪責を免れようとして、免許不携帯にかかる交通事件原票の供述書末尾の署名欄に「D」と記載し、警察官に提出した。

Yの罪責を論じなさい（但し、特別法違反の罪を除く。）。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の〔事例〕を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

〔事例〕

司法警察員Kは、ある食堂の店員Aから電話で詐欺事件の通報を受け、同店に臨場した。

店員Aは、店内の客席に座っている被疑者甲を指して、「この人が、無銭飲食をしました。」と被害を申告した。甲の目の前には、飲食を終えたばかりの空の丼と箸が置いてあり、甲は座ったままうなだれていた。

Kが甲に事情を聴くと、甲は、無銭飲食の前科があり、刑務所を出たばかりであること、出所後は住居不定であり、頼れる者もいないこと、所持金が底をついたので好物の牛丼を無銭飲食しようと考えたこと、そして、牛丼（380円）を注文し間もなくこれを食べ終えたが、もともとお金を持っておらず、他から代金を調達できる見込みもなく、さらに、注文の時点から支払いの意思がなかったことを供述した。

また、KがAに事情を聴くと、Aは、甲の入店から現在に至るまで、店内の客は甲一人であったこと、無銭飲食に気づいた後、すぐに甲の目の前で通報し甲から一度も目を離していないこと、甲の注文を受けて牛丼を甲に提供したのはこの日の午後1時20分であったことを供述した。

Kは、同日午後1時35分、詐欺の被疑事実で、刑事訴訟法212条1項に基づき甲を逮捕した。

〔設問〕（配点40点）

Kのした逮捕は適法か、具体的事実を摘示しつつ論じなさい。

なお、甲の行為につき詐欺罪が成立することについては論じなくてよい。

《問題2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

【問題 1】（刑法）

設問 1 は，幫助犯の成立要件について，具体的事例を通じて理論的理解及び事例処理能力を問うものである。

設問 2 は，名義人の承諾と私文書偽造罪に関し，具体的事例を通じて理論的理解及び事例処理能力を問うものである。

【問題 2】（刑訴法）

本問は，刑事訴訟法 212 条 1 項の現行犯逮捕につきその要件を示すことができるか，また，逮捕者が犯行や犯行の終了そのものを目撃していない場面において，現場の客観的状況の他，被害者・被疑者の供述によって犯人を特定し，現行犯逮捕することができるかを問うものである。